

川崎市立川崎病院 脳神経内科

病院概要

川崎市立川崎病院の前身は1904年12月に設立された伝染病組合病院であり、1927年に川崎市立病院と改称しました。1945年6月に6診療科の総合病院に切り替わるとともに現在の名称となり、2001年に現病院が竣工し今日に至っています。現在の診療科は29科、病床数は713床であり、川崎南部地域の基幹病院として診療にあたっております。

当院は、2006年4月に救命救急センター開設、2009年4月に新生児集中治療室（NICU）再開、2010年4月に周産期救急医療システム中核病院・地域周産期母子医療センターに認定、2011年3月に神奈川DMAT（災害派遣医療チーム）指定医療機関となるなど、基幹病院として更なる体制の充実を図っております

<http://www.city.kawasaki.jp/83byoin/kawasaki/index.html>。

脳神経内科の特徴

脳神経内科は内科の1つの部門という位置づけです。地域医療を担う公的医療機関（三次救命救急センターを併設）として、脳神経内科全般について診療しております。2017年4月より高度脳神経治療センター開設に伴い、血管内治療など積極的に脳血管障害の治療に努めております。現在は日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターとして急性期脳血管障害の治療にあたっております。また頭痛・めまい・しびれなどの神経系の症状や、パーキンソン病、重症筋無力症などの神経疾患の診療も行っております。2021年4月より完全予約制の「もの忘れ外来」をもうけるとともに2021年8月には認知症疾患医療センターを開設いたしました。さらにパーキンソン病に対する深部脳刺激療法（DBS）についても脳神経外科と協力しておこなっております。

当院の内科では歴史的に膠原病に力を入れおり、膠原病に合併する神経疾患（血管炎、全身性エリテマトーデス、ベーチェット病など）についてもリウマチ膠原病・痛風センターと協力して診療にあたっております。

スタッフ

病院長	野崎 博之（神経内科一般・脳血管障害）
医長	北菌 久雄（神経内科一般・認知症・パーキンソン病）
副医長	布施 彰久（神経内科一般・神経免疫・頭痛）
副医長	相馬 裕樹（神経内科一般・認知症・感染症）
専攻医	安部 恭嗣（神経内科一般）

2022.4 現在